

神楽：霧ノ塔・雁ヶ峰クラシックルートBC報告

【行動日】4月4日（土）

【ルート】かぐら・みつまたスキー場～ゲレンデトップ～霧ノ塔～雁ヶ峰～ゲレンデ

【登山方法】山スキー

【メンバー】CL 菊池、池田（継）、吉川、薄井（記録）

【行動時間】 駐車場出発 8:55→ゲレンデトップ(第5ロマ降り場:1830m)10:15 →12:27 霧ノ塔 1993m (の隣のピーク) →13:32 雁ヶ峰→1150m ゲレンデ→15:20 駐車場

【山行報告】

リーダーからは、当初「土日のどちらか天気が良い方で」とのアナウンスだったが、天気予報では両日とも崩れそう。それでもどちらかと言えば日曜日になりそうな雰囲気だったのが、予報が変わり、急遽金曜日の朝、土曜日の決行が決まった。

関越道の埼玉県内では雨が降っていたが次第に回復し、水上に近づくと上越国境の山々がくっきりと見えるようになってきた。これはよさそうと一同の期待が膨らむ。みつまたスキー場の駐車場に車を止め、準備をする頃には、暑いくらいの晴天になってきた。

あれこれ思案して、結局リフトは1日券を購入。それほど待たずにロープウェイに乗ることができた。それにしても、長野や新潟のスキー場は何となく都会くさい。いつまでも東北と比較するのもどうかと思うが、相変わらず福島にお世話になっていて、こちらでのスキーはまだまだこれからなのだ。

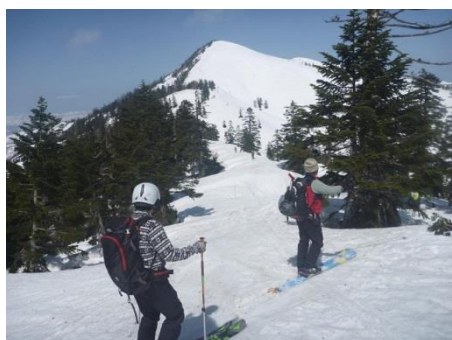
リフトを乗り継ぎ、第5ロマンスリフト前の「上級者コース」の表示にどきどきする。ああ、また来てしまった。私がこんなところに来ていいのだろうか。山スキーにはいつでも行きたいと思うのだが、下りのことを考えるとブルーになる。

リフトを降りたところも、たくさんの人で賑わっていた。このあたりはまだガスがかかっており、



あまり遠くまでは見渡せない。ビーコンをONにし、チェックを受けてゲートを抜けたら、シールを張って登高の準備をする。観光協会の主催するツアー御一行様も通り過ぎる。最初からスキーを

背負って足元がスノーシューなのを見ると、シールを所有していないようだ。



稜線に上がると、風は少々強いが冷たさは感じない。生暖かいと言ってもいいくらいで、春を実感する。歩いて行くうちに次第にガスも取れ、これから進む稜線が見通せるようになってきた。見上げれば青空、眼下には湯沢の街並みが見えるが、谷川岳あたりと思われる山々の山頂にかかる雲は、最後までとれることはなかった。

アップダウンを繰り返しながら先へ進むが、短い距離でもシールを付けたままで滑り降りるのは怖さを感じる。1年前にまさに膝に怪我をしたシチュエーションだからで、このビビりはいつまで続くのかと思いながら、急な場所はスキーを脱いでツボ足で下るしかない。

霧ノ塔直前のピークはなかなかの急登で、先行するパーティーを見ると、どうやらシールのままでは上がれないようだ。実は板を背負った経験がないのだが、はて私のザックに板がちゃんとつけられるのだろうかと考えた。近づいてみるとトラバースのルートはそれほど厳しくないようなので、ピークを外してトラバースする。そしてそのまま霧ノ塔のピークも外してしまい、東側のピークに直接上がる結果になった。



まあいいよね、と気を取り直して、シールをはがす。春らしく、早くもびしょびしょである。リーダーはよくよくGPSを確かめ、黒岩ノ平に滑り込むルートをとった。皆さんのように美しく滑れるようになれば、下りもきっと楽しいのだろう。

わずかな林間を抜けると、右側に急に落ち込む谷を見ながらの稜線歩きとなる。ピーク直前で再度シールを張り、雁ヶ峰のピークを目指す。池田さんはスキーを背負い、ツボ足でさっさと登って行った。遅れてピークに登り振り返ると、歩いてきた稜線にできていた雪庇の一部がごっそり落ち、



黒々とした岩肌を見せていた。手前にできている亀裂の数メートル横を歩いて来たようで、なかなかスリリングな眺めだ。

雁ヶ峰から少し

下った風の当たらない場所で大休止をとった。いよいよ最後の滑りである。緩斜面と急斜面の繰り返し、ゲレンデを真下に見る最後の急斜面を下る直前、転んでツリーホールに落ちこちてしまった。



木に引っ掛かったスキーを外し、枝につかまって体制を立て直したが、厳冬期に比べたらリカバリーの楽なこと。春スキーはいいなあ。なんとかゲレンデまでたどり着き、横滑りの練習をしたりしながら駐車場まで滑走した。終日天気がよく、素晴らしいルートを楽しめた。

スキー場近くの「街道の湯」に立ち寄り、さっぱりして帰途についた。最後にびっくりしたのは、国境のトンネルを抜けると、空が真っ黒で雨だったことです。

以上

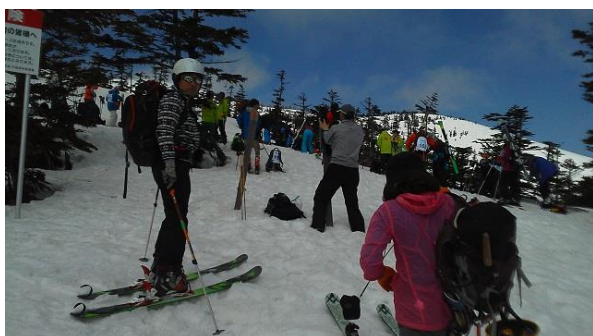
写真追加



雁ヶ峰で休憩



ダイレクトに登るグループ



スタート準備の大勢のツアー客



滑走ラインをバックに黒岩平に向かう